

三菱自動車が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」、新型『トライトン』ラリーカーでアジアクロスカントリーラリーの連覇に挑む

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」は、本日タイ・バンコクで世界初披露された新型『トライトン』*1をベースとするラリーカーで、今年8月にタイ～ラオスで開催されるアジアクロスカントリーラリー（以下AXCR）に参戦し、昨年に続き総合優勝を目指します。新型『トライトン』はフルモデルチェンジによって全方位で大幅に進化しました。AXCRの車両規定に沿って改造した同ラリーカーは、従来から定評のある耐久信頼性、軽快かつ安定したハンドリング性能、全域で力強くレスポンスのよい動力性能、泥濘路など極悪路での走破性など、昨年のラリーカーを上回るパフォーマンスを実現しています。

*1：『トライトン』は一部の国・地域では『L200』として販売



AXCR スペシャルサイトはこちら：

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/innovation/motorsports/axcr2023/>

「チーム三菱ラリーアート」は、昨年の覇者であるチャヤポン・ヨーター（タイ）、昨年5位に入賞したリファット・サンガー（インドネシア）、そして1999年と2010年のアジアパシフィックラリー選手権王者の田口勝彦（日本）の3台体制で2023年のAXCRに臨みます。総監督の増岡浩と開発部門のエンジニアは現地のラリークルーとともに、SUVの走破性とMPVの居住性を兼ね備えたオールラウンドミニバン『デリカD:5』のサポートカーでラリーの全行程に帯同し、競技区間での戦況分析や戦略立案からサービス拠点での技術支援まで行います。

チーム三菱ラリーアート総監督 増岡浩のコメント

「全てが一新され、全方位で進化した新型『トライトン』での参戦に、私自身、期待で胸が高鳴っています。ラリーカーは国内とタイで延べ2,000kmを超える耐久試験を行い特段のトラブルもなく、フラットダートの高速ステージからマッディな低速ステージまで、あらゆるステージで昨年以上のパフォーマンスを発揮できることを確認しました。それぞれが優勝を狙える3台体制であり、必ず表彰台の真ん中を勝ち取り、連覇を果たしたいと思います」

1. 新型『トライトン』ラリーカー概要

新型『トライトン』ラリーカーはタイ仕様のダブルキャブをベースとし、国際自動車連盟のグループ T1 規定（改造クロスカントリー車両）に沿った改造を施しています。3月のバンコク国際モーターショーで披露したコンセプトカーでは、エネルギーを内包した岩石をモチーフとしたシルバーとブラックのカラーリングとしていましたが、今回のラリーカーでは湧き上がる溶岩のエネルギーをモチーフとしたレッドとブラックのカラーリングに進化させました。

車体では、ロールケージやアンダーガードなどのラリー装備を装着する一方で、カーボン製のフード、前後ドア、荷箱を採用するとともに内装部品を大幅に軽量化した結果、従来車よりも一回り大きくなったボディでありながら従来車と同等の車体重量を実現しました。

ベース車でのトレッドの拡大に加え、ラリー専用の前後サスペンションや前後 LSD を装着し、軽快かつ安定したドライバーの意のままのハンドリング性能を実現しました。また、軽量アルミホイールに昨年仕様よりもナロータイプのオフロードタイヤを採用することで、マッドなど悪路での走破性を向上させています。前後サスペンションにはツインダンパーを採用し、さらにバンプストッパーを追加したことで、路面からの強烈な衝撃を吸収するなど、堅牢性の高いシャーシをさらに強化しています。

新開発の 2.4L ディーゼルターボエンジンは、フリクションロスの低減と軽量化を中心としたチューニングを実施するとともに、新しいターボチャージャーを搭載したことによって全域で出力向上を実現しました。なお、AXCR のスペシャルステージには川を渡る場面もあるため、各部のシーリングの強化やシュノーケル（吸気ダクト）の装着など、水回りの対策も行っています。

全長×全幅	5,320mm×1,865mm
ホイールベース	3,130mm
トレッド（前/後）	1,570mm / 1,565mm
エンジン形式	4N16 型 4 気筒 MIVEC ターボディーゼル
燃料噴射装置	高圧コモンレール
排気量	2,442 cc
ターボチャージャー	「三菱重工エンジン&ターボチャージャ」製
最高出力	150kW
最大トルク	470N・m
変速機	6 速マニュアル
4WD システム	スーパーセレクト 4WD-II
フロント/リヤデフ	「CUSCO」製 差動制限装置付
フロントサスペンション	独立懸架/ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング
リヤサスペンション	リジッド/リーフスプリング
ショックアブソーバー	「CUSCO」製 減衰力調整式ツインダンパー
バンプストッパー	油圧式
ステアリング形式	ラック&ピニオン（パワーステアリング）
ブレーキ	「ENDLESS」製 4ポッドブレーキキャリパー、ベンチレーテッドディスク、パッド 「FORTEC」製 ブレーキフルード
ホイール	「WORK」製 アルミニウムホイール（17in×7J）

タイヤ	「横浜ゴム」製 GEOLANDAR M/T G003 (235/80R17)
その他特長	カーボン製 フード、前後ドアパネル、荷箱

2. 『デリカ D:5』 サポートカー概要

『デリカ』の誕生 55 周年の話題喚起策として「チーム三菱ラリーアート」を支える『デリカ D:5』サポートカーを、合計 4 台投入します。リブボーンフレームによる堅牢なボディや様々な天候や路面でも最適な操縦性と走破性を提供する電子制御 4WD システムなど、『デリカ D:5』が従来もつ特長を生かし、WORK 社製のアルミホイールと、横浜ゴム製のマッド性能に優れたオフロードタイヤを装着することでフラットダートからマッドまでラリー全行程を走破できる仕様としています。競技車が走るコースサイドまで視察して戦略策定する増岡総監督が乗りこむ車両には、JAOS 製の前後サスペンションを装着し、より悪路走破性を向上しました。なお、新型『トライトン』と同様、湧き上がる溶岩のエネルギーをモチーフとしたレッドとブラックのカラーリングとしています。



増岡総監督用車両

新型『トライトン』特設スペシャルサイト（日本語版）

URL : <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/products/triton>

『デリカ D:5』車種サイト

URL : https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/delica_d5/index.html

以上